

ビジネスに直結した次世代IT基盤 「HP Adaptive Infrastructure」

創立20周年を迎えるNTTデータは、日本最大のシステムインテグレーターとして、わが国のIT業界を牽引してきた。日本ヒューレット・パッカード（以下、日本HP）は、グローバルで活躍する数少ないテクノロジーベンダーとして、NTTデータが創立した当時から、米国HPと一体となって強固なパートナーシップを築いてきた。

パートナーとしての日本HPの役割は、一貫して高性能・高信頼性のインフラと、システム構築や運用支援を提供して、NTTデータのSI事業を広くサポートすること。例えば、OEMパートナーであるNECとの協業のもと、NTTデータと一緒に構築したNTTドコモのiモードゲートウェイシステムにおいては、多数のHP-UXサーバを導入して、世界でも有数の機能・性能を誇るシステムを構築した。

そして今、システム構築の豊富な経験をベースに、ビジネス成果に直結した次世代ITインフラ「HP Adaptive Infrastructure」の実現に向けて、NTTデータとのパートナーシップをより一層強固なものにしている。

現状を維持することだけに 多大なITコストが投入されている

これまでの企業のIT基盤は、業務の効率化や省力化を目的に整備・構築されてきた。そのため、部署や業務ごとに最適化が進む一方で、市場の変化に迅速に対応するために、サーバの数を増やしたり、データベースを分散させたり、様々なアーキテクチャが混在してしまうなど、システムの複雑化が進んでしまっている。そして、IT基盤を管理・維持するために多額の費用が必要となり、その規模も拡大しているという状況に陥っている。図1は、企業のIT部門の多くが抱えている課題とIT投資の現状をまとめたものであ

る。お客様のITの多くは、各種コストの削減やリスクの低減、ビジネスのスピード化に向けて、その土台となるIT基盤の整備が求められている。しかし、IT投資のおよそ70%が既存のIT基盤の管理・運用・メンテナンスに費やされており、イノベーションや新たなサービスのための投資は、20%程度しか費やされていないのが現状である。

多くの企業がITに対して期待していることは、自社のビジネス成果に直結した付加価値の創造である。具体的には「収益性」、「ビジネス成長」、「競争優位性」の向上と「投資効果」の改善など。このようなことを実現するためには、IT基盤をこれまでの部分最適から「全体最適」

- ・ IT基盤の管理・維持費の増加
- ・ アプリケーションの冗濫、頻繁なカスタマイズ、利用率の低いサーバ
- ・ 増え続ける消費電力（IT機器、冷却）
- ・ 基幹業務のサービスレベルを満たすための労力
- ・ 短期化する新しいプロジェクト立ち上げの要求
- ・ 人員削減の方向性に反して、減る兆しのない現場の仕事
- ・ ビジネスリスクにより要求が高まるコンプライアンスへの対応
- ・ 高まるウィルスの脅威、セキュリティリスクにさらされるIT基盤

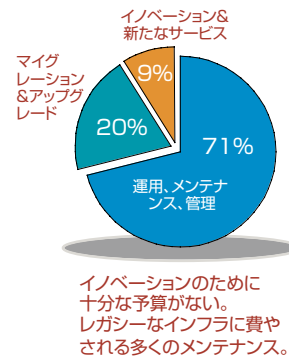


図1 IT部門が抱えている課題とIT投資の現状

へ、目的を業務の効率化・省力化から「ビジネスへの貢献」へ、そしてIT投資の比率をメンテナンス型から「イノベーション型」へと変革していかなければならない。このような変革の必要性を早い時期に認識して、積極的に様々な課題を解決していくことが、企業の成長戦略を大きく左右することになるだろう。HPが推奨している「HP Adaptive Infrastructure (アダプティブ・インフラストラクチャ/以下AI)」は、低い運用コスト、低リスク、高品質なサービス、そして、ビジネス変化への俊敏な適応力を実現することを目指した次世代IT基盤である。

ビジネス成長の最大化に向けた次世代IT基盤の理想形

AIは、HPがグローバル企業としてビジネスを展開する中で、HP自身が自社内で実施・検証してコンセプトをまとめたものである。

HPは、2002年5月にコンパック・コンピュータとの合併が完了し、統合された企業として新たなビジネスを開始した。現在HPは、世界170ヵ国以上でビジネスを展開し、コンシューマから大規模エンタープライズまで、全てのお客様に製品やテクノロジー、ソリューション、サービスを提供するグローバル企業である。

当時のHPのITでは、100サイト、50以上の国にまたがったITリソースが存在していた。IT予算のほとんどは、膨大なデータセンターやWebサイト、アプリケーションの

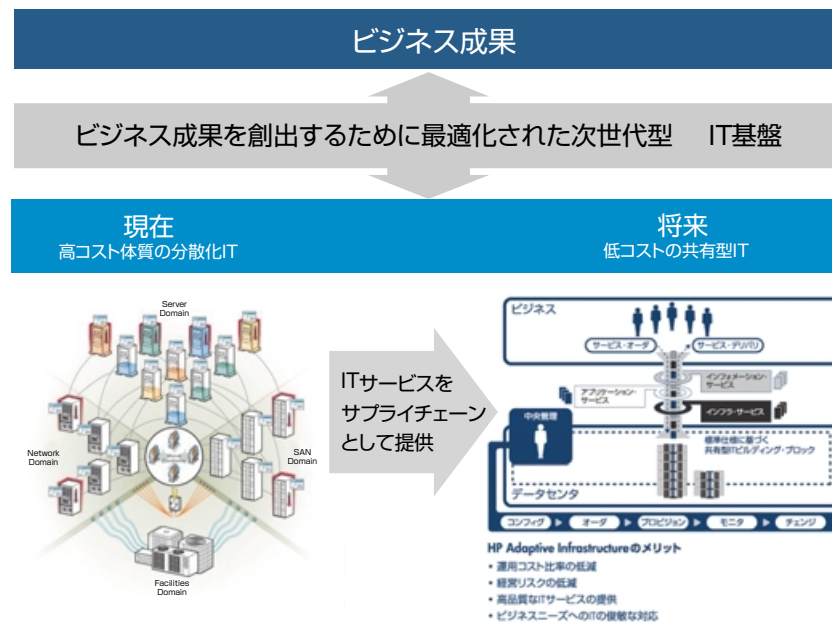


図2 次世代IT基盤における課題の解決手段

管理・運用、メンテナンスに費やされてしまい、新たなサービスの開発に費やされた予算は30%ほどであった。そこで、このような状況を改革し、経営層のリアルタイムな意思決定を実現するため次世代IT基盤構築プロジェクトを開始した。自社IT基盤の複雑さの解消や管理コストの削減、ITガバナンスの強化などを目指し最終的には、IT予算の中で管理・運用にかかる配分を70%から50%に圧縮し、新たなサービスを開発するための配分を10%から35%にするなど、ITの予算配分を劇的に変えて行くという、IT基盤の進化プロセスから生まれたのがAIである。

AIとは「24時間、365日無人で稼働するコンピューティング環境に向けて、標準コンポーネントで構成され、モジュラー化されたソフトウェアによる自動運用を可能にしたIT

基盤。また、ITサービスを提供するためのサプライチェーンが構築されている環境」を実現することである。つまり、共有化された各コンポーネントをITリソースプールに格納し、必要に応じて最適なりソース量を割り当てる。また、ITライフサイクルにあわせた管理と運用を自動化することで、サービスとして循環型ITリソースを提供する。(図2参照)。その結果、次のようなメリットを得ることができるようになり、これまでの縦型に分割されたIT基盤では乗り越えられなかった多くの課題を解決できるようになる(図3参照)。

- ◆ITの運用コスト比率の低減
- ◆経営リスクの低減
- ◆高品質なITサービスの提供
- ◆ビジネスニーズへのITの俊敏な対応

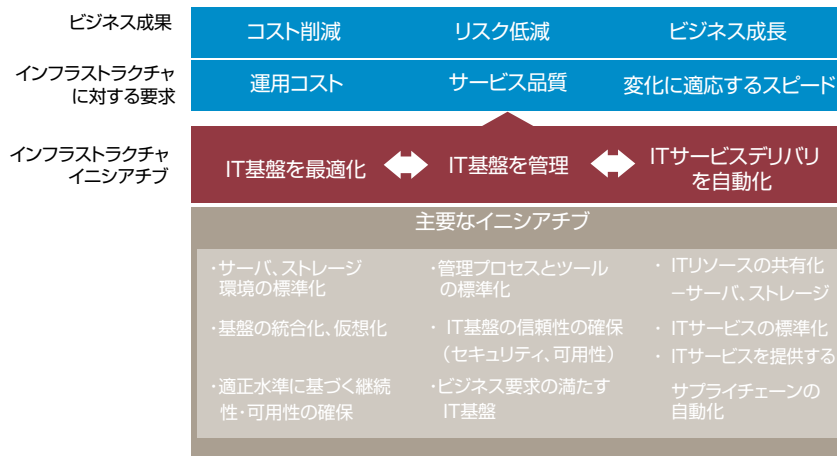


図3 ビジネス成果の最大化に向けたIT基盤の変革

次世代IT基盤の構築に必要な製品&ソリューションを提供

HP自身の経験に基づいたAIでは、このITサプライチェーン構築の鍵を握る製品&ソリューションを次のように6つに分けて整理している。

- ①ITシステム&サービス：拡張性や、高可用性に優れた業界標準の製品による柔軟な構成を実現、また経験に裏打ちされたシステム構築のための様々なサービス
- ②電源&冷却：CPU単体からハードウェア、さらにデータセンター全体におよぶ省電力・高効率コンピューティング環境
- ③管理：IT基盤の信頼性を確立するために、様々なコンピューティングリソースを一元的に管理
- ④セキュリティ：企業やお客様にとって重要となるデータの保全と情報保護対策
- ⑤仮想化：ITリソースを最適に利用するためのプール化・共有化

⑥自動化：最適なITサービスを動的に提供する基盤の自動制御

HPは、この6つの分野に注力しながら、分野間の緊密な連携にも配慮して、AIに必要なテクノロジーや製品、サービスを上流から下流まで一貫して提供できる体制を確立した。またAIによって、これまで分散していたIT（余剰リソース）が、プール化されたIT（適正リソース）

ス)として共有化されるようになる。例えば、アプリケーションや実行環境からリソースの要求があれば、リソースプールから仮想化技術を使用して必要量のリソースを供給する。そしてアプリケーションでの処理が完了した場合には、余剰リソースが随時リソースプールに返却される。このように自動的なリソース循環を実現することで、最適なりソース配分がなされ、ビジネスからの要求に対してスピーディーな対応が可能となる。

図4は、AIの運用タスクの一例である。仮想化されたIT環境に対して、統合された運用環境で対応していく。その場合の運用タスクの中で、物理・仮想環境のマッピングを行う「構成管理」、集約環境全体のキャパシティ計画を行う「キャパシティ管理」、影響範囲を把握する「障害管理」の3つの管理タスクの一元管理に重点を置いている。

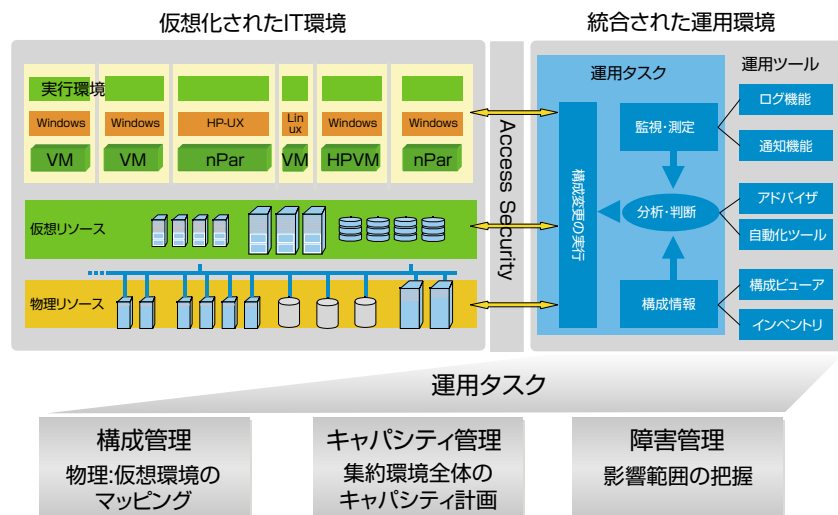


図4 アダプティブ・インフラストラクチャの運用タスク

NTT データ様と より一層強固なパートナーシップを 築いて参ります

日本HPはNTTデータ様の創立20周年を心よりお祝い申し上げます。

同時に、今後の益々のご発展を祈念いたします。

NTTデータ様は創立から今日までの20年間、日本最大のシステムインテグレータとして、一貫してIT業界の革新をリードされてきました。その実績と展望は、今日、NTTデータ様が掲げているビジョン「Global IT Innovator - 世界的視野とスケールで、ITを使って社会を変革していく企業。」に結実されていると思います。

HPは、NTTデータ様と長期にわたり強固なパートナーシップを築いて参りました。これからも共に「世界的視野とスケール」で「ITを使って社会を変革していく企業」として、より一層強固なパートナーシップを築いて参ります。

今後の日本市場は、加速するグローバル化の波を受け、不透明な経済環境が続くと予測されます。変化の時代、厳しい競争にさらされる多くの企業にとって、求められているのは、経営に役に立つ、ビジネスに貢献できるテクノロ



日本ヒューレット・パッカード株式会社
代表取締役 社長執行役員
小出 伸一

ジーです。従来の「IT」は、経営のためのテクノロジー「B.T. (Business Technology)」に変化しています。

HPは、グローバルのスケールメリット、幅広い製品力、最先端の技術力、そしてそれらを駆使したソリューションをお客様にとって最適な形で提供して参ります。日本HPのビジョンのキャッチフレーズである「期待の、その先へ。日本HP」の言葉どおり、お客様のニーズ、期待を捉え提案できる企業になるべく邁進する所存です。

ITからB.T. (Business Technology) へ

企業の中でITの果たす役割は時代とともに変化し、1990年代以降ITは、企業の実ビジネスの展開と密接に結びつき、ITはビジネスを支える存在になった。現在は、この状態がさらに進み、ITとビジネスの結びつきが一層進んでいる。このため、ITのリスクがビジネスのリスクに直結し、また逆に、新しいITの技術を使った新規のビジネスの展開による競合優位の獲得ができるなど、ITのビジネスに果たす役

割が大きくなってきた。ビジネスがあってITがあるという「主従関係」から、ITとビジネスを同じレベルで見ることが求められてきている。このように変化した環境では、ITは、ビジネスの影響も視野に入れてITを位置づける「Business Technology」という視点が必要になってきている。すなわち、ITへの投資がビジネスに与える成果をさらに明確にすることが不可欠とされ、これからのITには「ビジネスの成長の加速」、「リスクの低減」、「コスト削減」という、ビジネスの世界で重要視される3つの尺度を持

つことが求められてきている。これらの3つの点にアドレスした解決策を提供すべく、HPは「Business Technology」ソリューション・ポートフォリオを定義した。また、この定義に従い、HPは製品、サービスをポートフォリオとして整理し、必要な分野に、新製品、ソリューションを整備し提供していく。

※「iモード」は、NTTドコモの登録商標です。

お問い合わせ先

日本ヒューレット・パッカード(株)
カスタマー・インフォメーション・センター
TEL : 03-6416-6660
URL : <http://www.hp.com/jp/>